

IT日本語 イントロダクション

立命館大学
情報理工学部
李 亮

講義の前に

- 自己紹介

- 李 亮 博士(工学)
- 立命館大学 情報理工学部 准教授
- 信号処理、コンピュータビジョン、バーチャルリアリティなどを担当

- 研究テーマ

- 画像処理 (Image Processing)
- バーチャルリアリティ (Virtual Reality)
- デジタルミュージアム (Digital Museum)
- 感性工学 (KANSEI Engineering)

授業の概要

- 日本語環境での情報理工学専門科目の学修において、必要な、読み(Reading)、書き(Writing)、聞き(Listening)、話し(Speaking)の基礎を実践的に学ぶ
- 達成目標
 - 日本語で学術的な文章(レポート・論文など)を読む・書く力をつける
 - 口頭発表のためのスライドの作成方法、わかりやすい発表の仕方、質疑応答方法が理解できる

講義スケジュール

回数	内容
1	イントロダクション、論文作成の基礎　－1－
2	IT論文を読む　－1－
3	論文作成の基礎　－2－
4	IT論文を読む　－2－
5	論文作成の基礎　－3－
6	IT論文を読む　－3－
7	論文作成の基礎　－4－
8	IT論文を読む　－4－

講義スケジュール

回数	内容
9	IT論文を読む ー5ー
10	分かりやすい発表スライドの作り方
11	口頭発表 ー1ー
12	口頭発表 ー2ー
13	口頭発表 ー3ー
14	口頭発表 ー4ー
15	口頭発表 ー5ー
16	予備・まとめ

成績評価方法(当初)

種別	割合	評価基準など
期末試験	60%	授業中に講義内容の理解度を確認するための筆記試験を行う
口頭発表	20%	11～15週目の発表会において、発表内容、プレゼンテーション能力、質疑応答能力などを総合的に評価する
平常点	20%	出席状況・学習態度など

成績評価方法(更新)

種別	割合	評価基準など
期末試験	60%	授業中に講義内容の理解度を確認するための 筆記試験を行う
口頭発表	20%	発表ビデオを提出 発表内容により評価する
平常点	20%	出席状況・学習態度など

关于11-16课的作业要求

- 作业内容要求

- 请每位同学录制一个2分钟左右的发言（最长不得超过3分钟），用PPT介绍一个你关心的IT技术、IT设备、硬件、软件或研究论文。
- 请保存为视频格式（用PPT导出视频功能等），并提交给各班班长。请各班班长将班上各位同学提交的发言统合成一个视频文件，在截止日期前提交给课程助教。
- 提交至班长截止日期：3月31日
- 各位班长提交至助教截止日期：4月3日

- 11-16课课程安排

- 同学们提交的视频会上传到超星学习通系统。第11-16课期间请同学们登录系统观看视频。助教会定期督促和记录每位同学的观看情况。

IT日本語

第1回 学術的文章の文体と表現

立命館大学
情報理工学部
李 亮

はじめに

- 「SIMロック」を解除することになります。 **です・ます体**
- 5月から開始されるSIMロック解除義務化に向けて、NTTドコモとKDDIがその対応を発表。 **新聞**
- SIMロックとは、指定したキャリア以外のSIMカードが挿入されると、端末がネットワークに接続できないようにすることである。

学術的文章

クイズ

• レポートや論文でよく使うのは、AとBのどちらでしょうか？

- | | |
|-------------|------------|
| 1. A. ある | B. あります |
| 2. A. わからない | B. 不明である |
| 3. A. できる | B. 可能である |
| 4. A. 少し増えた | B. わずかに増えた |
| 5. A. 本報告 | B. この報告 |
| 6. A. でも | B. しかし |
| 7. A. 山田 | B. 山田先生 |

レポート・論文の文体(styles)

- レポートや論文などの学術的(academic)な文章は、「です・ます体」ではなく、「**である体**」で書く。
- 名詞文
 - a. 結果を示したのが図3です。⇒ 結果を示したのが図3**である**。
 - b. 急速に増大した時期でした。⇒ 急速に増大した時期**であった**。
 - c. 税金の引き上げ率は3%。⇒ 税金の引き上げ率は3%**である**。
 - d. 税率を引き上げる模様。⇒ 税率を引き上げる模様**である**。
- 新聞では「～だ」で終わる普通体が見られるが、論文ではこの形はあまり用いられない。
- c、dのような「である」を省略した形(名詞止めの文)を避ける。

レポート・論文の文体

- 形容詞文

- a. ~と言い換えた方がいいです。⇒ ~と言い換えた方が**よい**。
- b. むしろ共通性の方が重要です。⇒ むしろ共通性の方が重要**である**。

- 動詞文

- a. 次のことが分かります。⇒ 次のことが**分かる**。
- b. 対象空間の場合を述べましょう。⇒ 対象空間の場合を**述べよう**。
- c. アメリカで博士号を取得。⇒ アメリカで博士号を**取得した**。
- d. 説明しておきたい、この事件について。⇒ この事件について説明しておきたい。

- 新聞ではcのような「～する」を省略した形がよく用いられるが、論文ではこのような省略形は用いない。
- dのように述語の動詞が前に移動した文(倒置文)を避ける。

レポート・論文の文体

- 助動詞

- a. 必ず合うわけではありません。⇒ 必ず合う~~わけ~~ではない。
- b. これは～からでしょう。⇒ これは～から~~だろ~~う・~~であ~~ろう。
- c. ～することができるでしょう⇒ ～することが~~できる~~だろう・~~でき~~よう

- 受け身文・自発文

- a. この問題をよく新聞が取り上げている。⇒ この問題がよく新聞で~~取り上~~げ~~られて~~いる。
- b. (皆は)～とよく言っている。⇒ ～とよく~~言~~わ~~れて~~いる。
- c. (私は)～が理由だと思います。⇒ (筆者には)～が理由だと~~思~~わ~~れる~~。
- d. (私は)～と考えます。⇒ (筆者には)～と~~考~~え~~られ~~る。

- 一般に言われている意見・考えなどは受け身文で書く。
- c、dのように受け身文のような自発文を使い、「論を進めれば自然と～という意見になる」ということを表す。

レポート・論文の文体

- 意思・願望を表す文

- a. ~について述べたいです。⇒ ~について述べたい・述べたいと思う。
- b. ~について考えてみようと思います。⇒ ~について考えてみよう・考えてみようと思う。

- 文の接続

- a. まず~について簡単に述べて、次に~を検討して、最後に~について考えてみたいと思う。⇒ まず~について簡単に述べ、次に~を検討し、最後に~について考えてみたいと思う。
- b. 出産率は現在ほど高くなくて、人口は20万人に抑えられていて、安定した社会であったと言える。⇒ 出産率は現在ほど高くなく、人口は20万人に抑えられており、安定した社会であったと言える。

- て形接続の繰り返しは避け、連用中止形をとる。また、「いる」は「い」ではなく「おり」になる。

レポート・論文の文体

- 敬語

- a. 山田先生は～とおっしゃっている。⇒ 山田氏は～と述べている。
山田は～と述べている。

- b. 私は～で調査させていただいた。⇒ 筆者は～で調査した。

- 謝辞を述べる部分など特別な場面では、例外的に敬語や「です・ます」を用いることがある。

- ✓本稿をまとめるにあたり、鈴木花子先生から貴重なご指摘をいただいた。

- ✓この論文に対して有益なコメントを下された山田明氏に感謝いたします。

練習1

- 次の文を論文に適した文体に書き換えなさい。
1. この事実はIT業界が変化したことを示していると言えるでしょう。
 2. 10世紀に入って、Aの数は減少して、BやCが増大して、Aと国との結びつきは弱まりました。しかし、この時期Aは外国と結合する力を強めたと思います。

練習1

3. 都市の深刻な問題は人口が年々減少していること。
そこで、この問題をどのように解決すればいいのか考えてみたいです。
4. 調査団は6月、現地調査を行うことを決定。3カ月の準備時間
において、9月24日に調査を開始した。調査には鈴木先生も
ご参加になった。

レポート・論文の表現(expressions)

- 話し言葉は使わない。書き言葉の中には論文特有の表現もある。
- 終助詞
 - a. 影響力があるって言っている。⇒ 影響力がある と 言っている。
 - b. こちらの方が一般的だね。⇒ こちらの方が一般的である。
- 他に「さ」「ぞ」「ぜ」「わ」などの終助詞も論文では使用しない。
- 縮約形
 - a. 失敗しちゃう。⇒ 失敗してしまう。
 - b. 正しい予測じゃない。⇒ 正しい予測ではない。
 - c. 先に述べてる。⇒ 先に述べている。

レポート・論文の表現

- 擬声語・擬態語

- a. どんどん変わっていく。⇒ 急速に変わっていく。
- b. ぺらぺら話している。⇒ 流暢に話している。
- c. ごちゃごちゃになっている。⇒ 混乱している。

- 副詞

- a. すごく・とても難しい問題。⇒ 非常に・きわめて難しい問題。
- b. ちょっと違いがある。⇒ 少し・若干違いがある。
- c. たくさんの例がある。⇒ 多くの・多数の例がある。
- d. だいたい7割が学生である。⇒ 約・ほぼ・およそ7割が学生である。

レポート・論文の表現

- 筆者自身

- a. 私・僕は～。⇒ **筆者**は～。

- 筆者についての知識がないと分からない表現

- a. 今年の夏に調査した。⇒ **2012年の夏**に調査した。

- b. この近辺の大学生45人に聞き取り調査をした。
⇒ **滋賀県草津市内**の大学生45人に聞き取り調査をした。

- 論文自身

- a. この論文。⇒ **本稿・本論文**。

- b. この研究。⇒ **本研究**。

- c. この節・次の節・前の節。⇒ **本節・次節・前節**。

レポート・論文の表現

・その他

- a. 結果が得られなかったけど、～ ⇒ 結果が得られなかったが、～。
- b. ～である。でも～ ⇒ ～である。しかし～。
- c. ～かもしれない ⇒ ～可能性がある。
- d. どちらの場合でも同じ結果 ⇒ どちら・いずれの場合でも同じ結果
- e. 本節では～について言う・書く ⇒ 本節では～について述べる。
- f. ～は今まで言ったとおりである ⇒ ～は前述したとおりである。
- g. ～理論を使う ⇒ ～理論を用いる。

練習2

1. 次の語は、レポートや論文ではどう書きますか？下から選びなさい。

- ① 老齡人口がだんだん増加してきた。
- ② 世界中でたくさんの人がインターネットを利用している。
- ③ 月の直径は地球のだいたい4分の1である。
- ④ この病気の原因は、まだ解明されていない。
- ⑤ 今年度は昨年度よりもっと売り上げが伸びた。

a. 次第に
e. およそ

b. はるかに
f. わずかに

c. さらに
g. いまだに

d. 多くの

練習3

- 次の文をレポートや論文で使う表現に直さない。
 1. 人間はどうして夢を見るんですか。
 2. どっちが正しいのかな。
 3. アンケート調査をやって、その結果を分析しましょう。

練習3

4. こんなケースは今までほとんど報告されてなくて、その原因もわかりません。
5. 比率が一番高いのは、Aじゃなくて、Bでした。
6. 森先生はこんなふうにおっしゃっていますけど、どうですか。

練習4

- 次の文章を論文らしい文体と表現に書き直さない。

私はこの論文で日本とアメリカの教育制度の違いについて書きますよ。

どっちの国でも大学で何を学ぶかは、大学に入る前に何を学んだかによって違うんだなあ。日本じゃ、小学校とか中学校とか高校ですっごくいっぱい勉強するから大学での勉強はあまり強調されない。でも、アメリカでは大学に入る前にあんまり勉強をしないから、大学に入ってから勉強が重要です。